
弁当。

土管(ハチ)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

弁当。

【著者名】

N4925V

【作者名】 管　ハチ

【あらすじ】 思い出は、変わらない。

駅のホーム。

立ち並ぶ人ごみ。

最前列で鉄を待つ。

ふと視界に迷い込んだ
ぽつんと佇む弁当屋。

ここまで並んだ時間を足蹴あしげに
ネクタイを締めツカツカ歩く。

売り切れの札に隠れて一つ
どこか懐かしい弁当箱。
野口を置いて弁当を貰い
横のベンチでいざ開封。

哀愁。

頭に過ぎたこの言葉は
口に出さずとも田から出た。
輪ごむを外してはしを割り
手と手を合わせて

梅干しとシャケと玉子焼き。
たくあん色の白米。

端には隠れたポテトサラダ。

何もかもが懐かしい。
止まらない口と手と涙。

半分過ぎたそのころに
頬に冷たい感触が。

『はい、お茶』

思い出から出た言葉。
幼少のころの愛言葉。
はつ、と後ろを振り返ったが
弁当屋はそこにはない。
視界にあるのはただの夢。
と、弁当とお茶。

忘れない思い出から
忘れられない思い出となつた。

あの頃から変わったのは
スーツを着るようになつたくらい。

この味と彼女は変わらない。

ほんの一寸で

手に入れた時間は

辛い毎日を
幸せへ変えた。

鉄が目の前を過ぎ去った。

(後書き)

人生は、楽しい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4925v/>

弁当。

2011年10月8日13時44分発行